

新刊紹介 福本 紘 著  
 CDブック「日本の海浜地形」

海青社, 2003年2月28日初版発行,

PDF ファイル 500 ページ相当の CD-ROM + 29 ページの解説冊子, 定価 5,000 円 + 税

長谷川 均\*



複数の気候帯にまたがる日本では, Ice foot や Niveo-aeolian deposits が観察される北の海岸から, 生物起源の碎屑物が堆積する南の海岸まで, 海浜やそこで観察される自然現象は多様な地域性をもっている。ところが海浜は, 破壊や侵食に直面しており, 自然状態に保たれた海浜は非常に限られたものになっている。環境省がおこなう「自然環境保全基礎調査」によれば, 日本の自然海岸は 1993 年の時点で 55 パーセントであるという。海浜に限れば, この数値はもっと小さくなるだろう。

幅の広い海浜では, 打ち寄せる暴浪で侵食を受け

ても自己調整機能が働き徐々にその幅を広げて元に戻ることができる。しかし, これが機能しなくなれば何らかの方法で侵食に対する対策をとらなければならない。また, やみくもに公共事業を推し進めなければならない事情のある地域では, 無用と思われるような人工改変もおこなわれる。かくして, 自然の海浜は日本から失われ, 本書で扱われた地域でもすでにその姿を消した場所も少なくない。

本書には, 宗谷岬から石垣島まで, 31 地域 256 地点の海浜断面測量と, 海浜植生の記録から考察された日本の海浜地形の特性がまとめられている。また, それぞれの地形断面や植生のデータも掲載されている。本書であつかわれた地域は日本各地に散らばっているけれど, その分布はかなり偏在している。たとえば北海道はオホーツク海岸に, 日本海側は能登と山陰地域に集中している。瀬戸内地域の事例は, 淡路島だけである。四国や九州に関しても同様である。著者が一人で実施した調査結果に基づくものだから, このあたりはいたしかたないかもしれない。

本書でまとめられた調査は, 1960 年代から 90 年代におこなわれたものである。海浜は日々変化するし, 海浜を取りまく環境もまたこの期間に大きく変化したであろうから, 個々の海浜を単純に比較することはできない。しかし, ある一時期の海浜の記録ではあるが, 本書の記載は一人の研究者が長年にわたって記録し続けた貴重なものといえるだろう。また, 海浜を住みかや生育の場として利用している動物や植物の生態などを考えるうえでも, 本書で示されたデータは貴重な資料となることはいままでのない。

本書は二部構成になっており, 第 I 部では, 各地の地域研究が, 第 II 部では地域研究の成果に基づいて, 海浜地形の特性がまとめられ地域区分が試みられている。また, 海浜断面の形態をモデル化しその地域的分布と発達様式が考察されている。さらに, 海浜植生の地域的变化, 海浜植生と浜の幅との関係

受付: 2003 年 9 月 22 日

\* 国士館大学文学部地理学教室

〒154-8515 東京都世田谷区世田谷 4-28-1

から砂丘の発達と砂丘の安定性について検討されている。地形断面と植生という二つの指標から、海浜地形と形成環境の特性を表現し、海浜植物の成帯構造を取り入れて「地形-環境系」という概念を示した点が著者の新しい発想といえよう。

著者は、地理的に異なる形成環境がそれぞれの地域の海浜地形に反映され、海浜地形と形成環境との間に一つのシステム（系）が成り立っているとし、この形成環境と海浜地形の相互関係を図化して「地形-環境系」と名付けた。この「地形-環境系」によって、海浜地形はその置かれた形成環境に応じて各々の地域や地点によって特性が異なると著者は説明している。そして、それぞれの海浜の地域性はそれぞれの位置における地理的な「地形-環境系」によって生じており、とくに、リージョナル規模（著者は形成環境の規模の一つをこのようによんでいる）では、形成環境間においても相互作用がありより複雑なものとなっている。日本の海浜地形は、「地形-環境系」が複雑であるため、それぞれの地域に特有な地形景観を展開しているとしている。

従来の研究者も、このような点を考慮して海岸地形を研究してきたのだが、著者は「地形-環境系」と

いう概念でより体系的に整理したといえよう。ただ、「地形-環境系」の図は海岸地形になじみのない者にとってはすこし複雑でわかりにくいところもある。紹介者の好みでいえば、もう少しグラフィカルな表現をとっても良かったと思う。

本書は、ウインドウズとマックに対応し、印刷も可能な美しい体裁の電子本で、全 500 ページの膨大な成果と資料を CD に収録した意欲的な出版物である。専門書を CD で読ませるとするのは、単に本文中の引用文献をリンクから簡単に参照できるということだけでも大きな利便性がある。また、本書の PDF ファイルは、図表などのコピー、ペーストが可能な状態になっているので教材などで使われることも前提に作成されたものであろう。著者は、私立大学情報教育協会の中心メンバーとして、自らも積極的にファカルティ・デベロップメントに取り組んできた方であるだけに、このあたりも配慮されている。

本書は、日本における海浜地形研究のひとつの成果として意味があるし、今後の温暖化で失われてゆくであろう海浜の記録としても重要な資料を提供するものとなる。